

芸術

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
芸術	美術Ⅱ	2	2年次・D2	自由選択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
美術2（光村図書）		（アクリル絵の具セット、画用紙、キャンバスボード）		1年次で美術Ⅰを履修していること。

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

学年	学期	学習内容（単元・項目）	月	学習のねらい	評価の観点
学 習 の 年 間 計 画	1 学 期	1 オリエンテーション 2 思いを伝えるデザイン（人権ポスター） (1) 鑑賞 (2) 構想 (3) 制作	4	<ul style="list-style-type: none"> 美術Ⅱの学習内容について説明を行う。 メッセージ性の高いポスターのデザインを鑑賞し、特徴や感じたことをまとめる。 見る人にメッセージを伝えられるように、構成や配色を考え、構想を練る。 平塗りの技法について学ぶ。 意図が伝わるよう、構想を踏まえて丁寧に制作する。 	1 3
			5		2 3
			6		1 2 3
			7		1 2 3
			9		1 3
			10		2 3
	2 学 期	3 読後感を表す（読書感想画） (1) 読書感想画について (2) 鑑賞 (3) 構想 (4) 制作	9	<ul style="list-style-type: none"> 読書感想画について説明を行う。 過去の入賞作品など、多様な表現の形を鑑賞し、読後感を言葉だけでなく絵として、いかに表現しうるか考える。 印象に残った場面や言葉などを基に、本のイメージに合わせて構想を練る。 モダンテクニックやマチエールなどを生かし、味わいのある画面に仕上げる。 	1 3
			10		2 3
			11		1 2 3
			12		1 2 3
			1		1 2
			2		1 2 3
3 学 期	4 生活の中の彩り（版画：消しゴム判子） (1) 技法について (2) 構想 (3) 制作	1	<ul style="list-style-type: none"> 凸版の技法について学ぶ。 日常生活で使用するものに、彩りを添えるデザインを考える。 丁寧に版のカッティングを行う。 混色や配色を工夫し、はがき大に使用する判のバランスを見ながら押す。 	1 2	
		2		2 3	

令和5年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

	観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
学 習 評 価	規 準	<ul style="list-style-type: none"> ○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めることができるか。 ○意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて理解できているか。 ○主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりできているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むことができているか。 ○感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことができているか。
	手 段	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の様子 ・自己評価表 ・作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の様子 ・自己評価表 ・作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の様子 ・自己評価表 ・作品
		単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法	単元末、学期末ごとに評価を総括し、年次末に、単元末と学期末の総括を行い評価する。	
学習上の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料を必要とするため教材費（1000円程度）を徴収する。 ・定期考査は行わないので、積極的に授業に参加し、作品を必ず完成させること。 ・実習が中心であるので、完成するまで根気や集中力が必要である。 			